

1 学 年 第2学年

2 単元名 「なかよしになろう」

3 単元設定の理由

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領生活内容（8）「生活や出来事の交流」を基に、構成したものである。ここでは、自分たちの生活や出来事について伝え合う活動を行い、互いのことを理解し合う中でかかわることの楽しさが実感として分かり、人々と進んで交流できるようにすることを目指している。内容構成の具体的な視点としては、「イ 身近な人々との接し方」「カ 情報と交流」を取り入れている。

本単元では、幼児を相手に身近な遊びの楽しさや遊び方について伝え合い、交流する活動を行う。幼児との交流を設定することで相手意識が生まれ、相手の反応を見ながら何とかして分かってもらおうと伝え方を工夫したり、相手が伝えたいことを理解してあげたいという気持ちを高めたりすることができる。また、双方向のやりとりが円滑に行えるようになることで児童は達成感や成就感を感じ、幼児とかかわることの楽しさを実感することができる。さらに、交流を繰り返すことで、児童はもっと分かりやすく伝えたい、もっとかかわっていききたいと思うようになり、幼児と上手にかかわれるようになった自分の成長を感じることで、身近な人々と進んで交流していこうとする意欲が高まっていくと考える。

(2) 児童観

本学級の児童は、第1学期に町探険に出かけた際、事前に考えていた質問事項について、探検先の方に意欲的にインタビューすることはできていた。しかし、実際に見学をしてもっと知りたいと思ったことについて進んで質問するなど、探検先の方と進んでかかわろうとする姿はあまり見られなかった。探検後の発表会では、「見つけた町のすてき」について、分かりやすく伝えようと紙芝居や劇など表現方法を工夫し、楽しく交流することができていた。伝えたいことを伝える相手が、学級の友達や家の人であったため、相手の状況に合わせて伝え方を工夫したり、もっと伝えたいと意欲を高めたりするところまでには至っていない。

幼児との交流は、1年生の時、一緒に給食を食べながら学校生活の様子を幼児に教える活動を行っている。一緒に活動することを互いに楽しむことはできていたが、児童が一方的に話すだけで終わってしまい、幼児の反応を見ながら自分が伝えたいことが伝わったかどうか確かめたり、幼児から話を引き出したりするなど、積極的にかかわっていこうとする姿は見られなかった。そのため、幼児とのかかわりも、その場限りのかかわりに終わってしまっている。

(3) 指導観

指導に当たっては、次の2点の工夫を行う。

- ① 「幼児と直接かかわる交流」と「気付きを伝え合う交流」を組み合わせることで、児童の思いや願いを反映し、実現できるようにする。

ア 導入場面で幼児からの手紙を児童に提示し、「幼児と仲良く遊びたい」という目的をもって、交流がスタートできるようにする。

イ 「幼児と直接かかわる交流」では、仲良しペアでの活動を仕組むことで、「相手は何をしたいのかな」「分からないことは自分から尋ねよう」と考えるなど、互いのことをもっと理解し合いたいという気持ちが高まるように支援・援助を工夫し、かかわることの楽しさが実感できるようにする。

ウ 交流後の「気付きを伝え合う活動」では、「どうやったら幼児がもっと遊びを楽しむことができるか」「遊び方がうまく伝わるか」などについての気付きを出し合い、友達の気付きと比べたり関連付けたりすることができるようにする。そのことで、幼児とかかわることの楽しさに気付き、次の交流への思いや願いが高まるようにする。

エ 単元末には、互いに頑張ったことを相互評価させながらこれまでの交流を振り返らせ、今までのかかわり方と比べて考えさせることで、自分の成長に気付くことができるようにする。そのことで、もっといろいろな人とかかわっていききたいという意欲が高まっていくようにする。

- ② 本単元の実施にあたって教師同士が協議を繰り返し行い、小学校と幼稚園の教育課程をつなげ互恵性のある交流ができるようにする。

ア 単元実施前・・・小学校、幼稚園の子供の実態を交流する。それを基に、単元ねらいをそれぞれ

が設定、共有し、単元構想について協議する。また、お互いが幼小の子供に支援や援助を行うことで、両方のねらいが達成できるようにすることを確認する。

- イ 交流前・・・幼小の教師が協働して意図的に本時の活動を仕組み、双方の活動が共有できるような指導計画を作成する。また、目指す児童、幼児の具体的な姿を活動に沿って想定し、それを基に支援や援助の方法を計画し、共有する。
- ウ 交流後・・・具体的に想定した姿と実際の姿を照らし合わせ、効果的であった支援や援助についてや、見直しが必要である点について協議し、次の交流に向けて改善を図る。
- エ 単元実施後・・・単元全体の成果と課題を協議し、児童と幼児の思いや願いがさらに高まっていくよう、次の活動の計画を立てる。

4 単元の目標

幼児との交流で気付いたことを伝え合う活動を通して、人とのかかわる楽しさや自分の成長に気づき、身近な人々と進んで交流することができるようにする。

5 単元の評価規準

次	生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分 についての気付き
単元の 評価規準	幼児や友達と伝え合うことに関心を持ち、進んで交流しようとしている。	幼児や友達に分かりやすく伝えられるよう、自分なりに伝え方を考えたり、工夫したりしている。	幼児と直接かかわったり、友達と気付いたことを伝え合ったりする中で、身近な人々とかかわる楽しさが分かり、それらができるようになった自分に気付いている。
学習活動（小単元）における評価規準	一 ①もっと仲良くなりたいという意欲を持ち、進んで幼児とかかわろうとしている。		
	二	①相手の気持ちを考えながらかかわり方を考え、話しかけたり見本を見せたりしている。	①自分の伝えたいことが幼児に伝えられたことで、かかわる楽しさに気付いている。
	三 ②「なかよしパーティー」を通して、幼児とのかかわりを楽しみ、進んでかかわろうとしている。	②幼児が伝えたいことは何かを考え、相手の様子や反応に合わせてかかわっている。	②以前のかかわりと比べて、幼児と適切に接することができるようになった自分に気付いている。

6 指導と評価の計画（全 12 時間）

小単元名 (時数)	主な学習活動	評価規準	評価方法
一次 いっしょに 遊ぼう(4)	【小単元の目標】 幼児とのかかわりを楽しみ、「幼稚園さんと仲良しになろう」という意欲をもつことができる。 「いっしょに遊ぼう」 (事前の学習) ○ 幼児と仲良くなるために、やってみたいことは何か、どんなことを考えておく必要があるかについて話し合う。 (幼児との交流1回目)		
		関①：もっと仲良くなりたいという意欲を持ち、進んで幼児とかかわろうとしている。	話し合いの様子 学習カード 活動の様子 発言

	○ 幼児とペアになり遊ぶ。 ○ もっと仲良しになるためにどんなことをしていきたいかを話し合う。 (気付きを伝え合う活動) ○ 1回目の交流を振り返りながら、幼児ともっと仲良しになるためにはどのようにすれば良いかを考え、話し合う。		
二次 もっとなかよしになろう (4)	【小単元の目標】 幼児とのかかわり方を工夫しながら、ペアで遊びを試す活動を通して、相手に自分のことや伝えたいことが伝わる楽しさに気付くことができる。 「もっとなかよしになろう」 (事前の学習) ○ 1回目の交流を振り返り、幼児と一緒に遊ぶと楽しい遊びを考える。 (幼児との交流2回目) ○ 幼児と相談し、なかよしパーティーでする遊びから2種類選んで遊ぶ。 (気付きを伝え合う交流) ○ 2回目の交流を振り返りながら、「なかよしパーティー」ではもっともっと仲良しになるために、どうすれば幼児の伝えたいことが理解できるかについて話し合う。	思①：相手の気持ちを考えながらかかわり方を考え、話しかけたり見本を見せたりしている。 気①：自分の伝えたいことが幼児に伝えられたことで、かかわる楽しさに気付いている。	活動の様子 発言 話合いの様子 学習カード
三次 なかよしパーティーをしよう (4)	【小単元の目標】 「なかよしパーティー」を通して、相手の反応に合わせてながら適切にかかわることができるようになった自分に気づき、身近な人と交流することは楽しいという気持ちをもつことができる。 「なかよしパーティーをしよう」 (事前の学習) ○ ルールを確認し、なかよしパーティーのリハーサル行う。 (幼児との交流3回目) ○ 「なかよしパーティー」を開く。 …本時 2・3/4 (気付きを伝え合う交流) ○ 頑張ったことを相互評価しながら、今までの交流を振り返る。	関②：「なかよしパーティー」を通して、幼児とのかかわりを楽しみ、進んでかかわろうとしている。 思②：幼児が伝えたいことは何かを考え、幼児の反応に合わせて話しかけている。 気②：以前のかかわりと比べて、幼児と適切に接することができるようになった自分に気付いている。	活動の様子 発言 話合いの様子 学習カード

7 本時の学習（10・11 時/12 時間）

【幼稚園】		【小学校】				
(1)ねらい ○ ペアの小学生に親しみを持ち、小学生と一緒に遊ぶことを楽しむ。		(1)本時の目標 ○ 「なかよしパーティー」で幼児と遊ぶ活動を通して、幼児の伝えたいことは何かを考え、かかわり方を工夫することで、伝え合う楽しさを実感することができる。				
(2)学習の展開						
【幼稚園】		過程	【幼稚園・小学校】 活動の流れ	【小学校】		
教師の援助	◇予想される幼児の反応			○予想される児童の反応	教師の支援	評価規準 (評価方法)
・ペアの児童の横に行くように促す。 ・園児が楽しみにしている様子を話し、お楽しみ会への意欲を高める。 ・分からないことや困ったことがあったら、児童に尋ねることを話す。	◇楽しみだな。 ◇早く一緒に遊びたいな。 ◇今日はこの間でできなかった遊びもできるぞ。	導入 10分	1 はじめの会を開く。 ・司会の児童が会を始める。 ・児童代表と園児代表がはじめの挨拶をする。 ・本時の交流のめあてを確認する。 なかよしパーティーをひらいてもっともとなかよしになるう。	○やっこの日が来たな。 ○幼稚園さんが楽しんでくれるといいな。 ○計画通りにできるといいな。 ○幼稚園さんが楽しいと思えるように、遊び方をうまく伝えられるといいな。	・今までの活動を振り返らせお楽しみ会への意欲を高める。 ・幼児が楽しめるように遊び方を工夫して伝えることができるように話す。	
(幼小で事前に共有した支援を行う。) ・かかわることができていないペアに、何が原因かを見極め、園児、児童の実態に合わせてアドバイスをする。 ・楽しそうにかかわったり自分から尋ねたりしている園児には、その様子を賞賛する。	◇小学生と一緒に遊んで楽しいな。 ◇小学生が分かるように教えてくれるからうれしいな。 ◇お兄ちゃんやお姉ちゃんが優しくしてくれるからうれしいな。 ◇遊び方が分からない時は聞いてみよう。 ◇仲良くなったお兄ちゃんやお姉ちゃんといっぱい話したいな。	展開 65分	2 なかよしパーティーをする。 ・司会の児童が会を進める。 ・全員でゲームを行う。「リレー」「だるまさんがころんだ」「こおりおに」「ころがしドッジ」 ・児童がペアの幼児に遊び方を伝える。 ・幼児は、分からないことや困ったことが出てきたら、ペアの児童に尋ねる。	○幼稚園さんに分かるようにはっきり話そう。 ○ペアの幼稚園さんが困っていたら顔やしぐさを見てみよう。 ○遊び方の説明が伝わるように見本をみせよう。 ○ルールが分かっているか聞いてみよう。	(幼小で事前に共有した支援を行う。) ・司会の児童に、会がスムーズに進まない時にはアドバイスをする。 ・うまく伝えられない時には、話し方などアドバイスをする。 ・分かりやすく伝えようとしている時を逃さず賞賛する。	【思】幼児の伝えたいことは何かを考え、様子や反応に合わせてかかわっている。 (活動の様子)
・児童に慰めてもらったことや、遊び方が分からないとき自分から尋ね、教えてもらったことなど一緒に交流した時の園児の思いを引き出しながら、言葉を添えて援助したり賞賛したりする。	◇お兄ちゃんやお姉ちゃんと一緒に遊んで楽しかったよ。 ◇今日した遊びを幼稚園でも遊んでみたいな。 ◇また、お兄ちゃんやお姉ちゃんに会いたいな。 ◇自分より小さい子に優しくしてあげたいな。	まとめ 15分	3 終わりの会をする。 ・児童と園児が頑張ったこと、楽しかったこと、うれしかったことなどを発表する。 ・小学校教師と幼稚園教師は、かかわり方がよかった場面について評価する。 ・終わりの挨拶をする。	○最後まで一緒に仲良く遊ぶことができうれしかったよ。 ○幼稚園さんが遊び方が分かったよと言ってくれてうれしくなったよ。 ○今日で終わるのはさみしいから、また一緒に遊ぼうね。 ○今度はちがうペアの幼稚園さんと仲良しになりたいな。 ○今度は、一緒に何かを作って遊びたいな。	・幼児が遊び方が分からなくて困っている時や転んで泣いてしまっている時など、最後まで寄り添ったり見本を見せて伝えたりしていたことを取り上げ賞賛する。 ・また一緒に交流したいという思いが実現できるようにしていくことを話す。	